

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	平成29年3月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護」「自分自身が受けたいと思える介護」「子供たちに継承してもらえる施設」という3つの理念を遵守し、スタッフが協力し合って取り組んでいる。
一人ひとりに応じた対応を、その人らしい生活が送れるよう支援するとともに、ご家族様とも連携をとって、ご本人、ご家族ともに安心して頂ける支援を心がけている。また、医療のニーズがある場合はご家族にお任せするだけでなく、ホームとしても可能な限り柔軟に対応し、早期に健康が回復するよう努めている。
また、ホーム全体としての行事にはご家族様にもご案内を出し、多数参加をいただいている。その他、個別にできるレクリエーションにも工夫している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後4年目に入り、新しい管理者が業務を引き継ぎ、全般に亘って新しい感覚で改善を進めている。中堅の職員が毎月開催する会議では、業務日誌の記載方法、勤務シフトとケア記録の対象時間帯、利用者の居室担当者の業務範囲の見直しなど、多岐に亘って検討を加え運営に反映させている。又、利用者毎の個別ケアを実践する為に、利用者の意向や支援ニーズについて、再度家族の意向を反映させながら情報を整理する事に着手している。隔月に開催する運営推進会議には家族が5・6名参加しており、毎回、家族が議長を務める中、利用者も一言発言するという活発な運営がされている。利用者の高齢化と重度化が進みつつあるが、家族が頻りに事業所を訪れ、会話をしながら食事介助をする様は、多世帯家族の懐かしい暮らし振りを想い出させる。近隣からのボランティアの来訪も増えてきているが、自治会、老人会、幼稚園や小・中学校など、地域との今後の更なる交流に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「自分の親に受けさせたい、自分自身が受けたいと思える介護サービス、今の子供たちに自信をもって継承してもらえ施設」に基づきサービスの方向性や介助方法を日々検討している。	法人の理念をチラシに掲載して对外発信するとともに、名札の裏にセットして職員に周知している。理念を具体的なケアに反映させるために、分かり易いキャッチフレーズを職員で検討する計画であったが、進んでいない。	事業所独自のキャッチフレーズの作成を、引き続き検討して頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区のボランティアセンターを活用し、催しもの開いたり、地域行事への参加ができるよう情報をいただき、参加し地域の一員として交流を行っている。	ボランティアセンターからの情報を活用し、ボランティアによる催し物を増やしている。事業所付近を利用者と一緒に散歩しながら、近隣住民と挨拶を交わしている。「トライ・やるウイーク」など、近隣の学校と交流するには至っていない。	「トライ・やるウイーク」の受け入れ先として、立候補されたらどうであろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長および近隣住民の方とお話し、認知症という症状のご理解を得るよう努めている。また、入居者様と外出する際は、近隣住民の方にご挨拶やお話をするように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では情報をオープンにし、隠さずにお話することを心がけている。記録になる写真や書面で取り組みや行事がわかりやすいように説明し、ご要望もお聞きするようにしている。	隔月に開催している。毎回家族が5・6名参加して議長を務めている。自治会の代表から地域の情報を得て餅つき大会に参加したり、地域包括からの意見を反映して、戸外作業する際の熱中症対策を施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターなどともホームでの困りごとなどの相談をさせて頂いている。また、外部の研修なども参加し、情報収集に努めている。	地域包括を軸にして連携している。地域の事業所連絡会に管理者が参加して情報交換を行っており、今年度は幹事を務めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修において、身体拘束に関する研修を全員が受けている。また、身体拘束に関する意識を高めるよう職員同士で声をかけ合っている。	身体拘束排除と虐待防止の研修を毎年2回開催し、職員への周知に努めている。夜間に転倒した利用者が有り、センサーマットの使用について検討したが、近くでの見守りに徹する事とした。拘束する器具を使用した事は無いが、使用に際しては、家族から同意を得る書式を備えている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置や職員間での指摘の場を作り、不適切ケアに値する声かけや対応がなされていないか、常に意識するように心がけている。	DVDや、法人が作成した分かり易い例を使った資料を活用して、研修をしている。精神的虐待に通じるような言葉遣いには特に気にしており、管理者は見掛ける都度、注意を喚起している。スマートホンの「Line」を活用して本部の担当部署が職員からの相談や悩みを聴く事で、ストレスを軽減する仕組みが有る。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を受けておられるご入居者様の後見人およびご家族様と随時面談をしており理解を深めるようにしている。職員は入職時、研修において権利擁護について学んでいる。	成年後見制度を活用している利用者がある。後見人とは電話で話すことが多く、制度に関する職員の知識は断片的である。管理者は、契約時に必要に応じて説明するとともに、今後、説明用の資料についても準備していく考えである。	制度の概要を説明した資料を準備することで、今後の職員研修等での活用を検討されてはいかかが。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分ご本人やご家族様と面談をし、ホームでできることできないことについてはできるだけ細かく説明を行っている。契約締結時には書類を全て読み上げ、なお説明を交えながら署名をいただいている。	契約時には詳細の説明をしている。費用面の他で家族から多い質問は、利用者が重度化した場合の事業所での対応可能な範囲についてである。事業所の指針を説明して出来る事と出来ない事を明確にし、納得のうえでの契約となっている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてはご家族様からたくさんの発言をいただいている。管理者だけでなく、職員からも積極的に話かけることで細かいご意見をいただけるよう心がけている。	運営推進会議や来訪時に意見や要望を聴いている。意見や要望で共通項的なものは、事業所の運営に反映させる様にしているが、殆どが利用者個々に関する事である。家族への満足度調査等は特に行っていない。	新管理者として、満足度調査を一度検討されてはいかかが。
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、フロアミーティングや個別面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。また必要な研修や行事の実施なども常に職員の希望や相談が気軽にできるよう心がけている。	半期毎に人事考課の個人面談をする中で、要望や意見を聴く時間をとっている。職員の全体会議などで出た意見は、毎月開催する中堅職員の会議で必要に応じて取り上げている。キッチンにおける使用後の刃物の扱い方、業務日誌の記載方法、居室担当職員の業務範囲など、運営に反映したことは多い。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、意欲を持って業務にあたるようインセンティブを提供している。また、評価面談においては、管理者と職員が直接面談し、個人の良い点や改善点を伝えている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人のことはあるが、福祉系の資格については積極的に取得努力している。必要な研修は法人内外で参加し、情報を提供している。またフロアミーティングを通じてスタッフ間で意見交換をし、実践している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所に研修などに行くこと、または受け入れることで交流や連携を行っており、各自気付きを得る機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリング、およびご本人との面談を通じてニーズを把握するよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人やご家族からできるだけ情報をいただき、ご本人にとって適したサービスを行うよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事等と共にやっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にご参加頂くよう働きかけている。また、ご入居者の求めに応じて電話連絡を行ったり、来訪をしていただくなどして、関係を築いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医を受診するお手伝いをしたり、なじみの場所へ出かけたりするよう努めている。	事業所を訪問した家族や友人が、利用者と一緒に馴染みの場所へ出掛ける事が多い。事業所の車では、近隣の公園、花見へと出掛ける。利用者が一言書いた年賀状を職員が手伝って仕上げ、全ての利用者の家族宛に送った。利用者同士の馴染みを支援しており、お互いに居室を訪問する利用者もある。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご入居者の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築いていけるよう介入している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去によりご利用が終了した後も、運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂戴したことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	予めご入居前にご本人およびご家族からご意見を伺い把握に努めている。ご本人からの意向を把握するのが困難な場合は、ご様子を観察しながら職員間で情報を共有したり、ご家族からの情報やご意向を尊重している。	コミュニケーションが難しい利用者が複数ある。利用者の表情や普段の素振りから意向を汲み取ったり、家族から情報を得ている。得た情報は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。殆どの利用者の更衣を毎朝手伝っており、衣類の好みを選択肢で問いかける様にしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。そして申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるような連携をしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	予め関係者からの情報を収集し、ケアカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎に居室担当を決めているが、ユニット内の全職員が全利用者の日々のケアを行い、経過記録を作成する体制である。管理者も参加した担当者会議を、基本、半年毎に開催してモニタリングし、計画作成担当者が結果をまとめて次の計画作成へとつなげている。家族からの要望は、来訪時に聴く様にしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診は、ご家族と相談し送迎や付き添いを行っている。必要物品の購入につき、要望があれば立替購入をしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に花の手入れをして頂き、ご入居者にも水遣り等して頂いている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可能としている。ご本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	主治医の選択は可能であるが、殆どの利用者が、事業所提携の訪問医を主治医としている。月に2回の訪問診療と週に2回の訪問看護、24時間オンコールによる安心な医療体制が整っている。精神科や整形外科受診時は家族が付きそうが、医療機関と連携し適切な治療を受けられるよう支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週に2回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。また、報告、連絡、相談がスムーズにできるように電話連絡およびFAXにて「状態報告シート」を使って連携をとっている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな退院支援を行っている。	感染症や骨折などの入院があるが、家族の要望を考慮し、継続的な医療処置がなければ早期退院の方向で病院と調整を行っている。そのため、まめに面会や情報収集を行い、退院前カンファレンスに参加し、より良い状態で退院できるよう支援している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。入居時に本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者主にかかりつけ医とチームで支援に取り組んでいる。	利用者の重度化は事業所としての課題であり、条件付きで看取りを行う方針である。利用者の状態に応じて、「重症化した場合の対応に関わる指針」をもとに、事業所としてできること、できないことを段階的に説明し、協力医や訪問看護師、家族を交え、終末期の方向性の選択を支援している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、かかりつけ医及び訪問看護に連絡を入れ相談し対応できる体制ができている。必要時は往診の体制もある。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。その内、1回は日中、もう1回は夜間を想定した訓練を行っている。昨年はライフラインがとまった想定で環境を作り入居者様と過ごす訓練を行った。	今年度は、利用者参加のもと、地震でライフラインが止まった想定での訓練を行い、避難や備蓄品での食事作りなどを行った。夜間想定を含めた災害訓練を2回実施し、職員は災害時の対応や誘導方法を身をもって学び、改めて危機管理意識を高めることができた。また、緊急連絡対応方法の掲示なども整備した。	次回は消防署立会いによる訓練を実施されてはいかかが。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者と職員は家族的な関係でありながらも家族ではないことを自覚し、人生の先輩であることを自覚するよう心がけている。また、言葉の乱れや声かけについても職員同士が指摘し合える環境づくりに努めている。	職員の接遇面のスキルアップを目指し、接遇委員を「接遇大臣」と名付け、模範となり、接遇マナー推進を図っている。この取り組みにより言葉遣いや、利用者を苗字で呼ぶなど改善がみられている。また、利用者の一人で過ごす時間も尊重し見守っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために、積極的にコミュニケーションを図っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴はご本人の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意頂くようご家族に依頼している。化粧品などは馴染みの物をご利用されるよう支援している。ご自分で髭剃りが難しいかたは、介助にて行われている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。月に2日は、入居者様のご希望のものや季節を感じていただける献立の日を作り、入居者様主導になって調理する日を設けている。	法人本部で毎月開かれる食事検討会議では、問題点を議論している。利用者は季節の献立や、月2回の調理の日に、職員と共にメニューを考え、調理できることを楽しみにしている。利用者によっては、包丁を使ったり、食器洗いを行なっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食分量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕に口腔ケアを実施している。また、週に1回歯科往診を実施している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居面談時の排泄アセスメントで、排泄生活の習慣を把握している。日頃の様子を観察した上でなるべくトイレで排泄できるよう援助している。	殆どの利用者が、おむつやリハビリパンツを使用している。できるだけトイレで排泄できるよう、仕草、訴えや排泄パターンにより、トイレ誘導を行っている。清潔保持のために、毎日陰部洗浄を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットパックでお腹を暖めたり、散歩するなど運動も勧めている。また3日以上排便がない場合は、かかりつけ医の指示の下で下剤を使用してコントロールしている。水分摂取量にも気を配り、不十分な場合は促すように努めている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、可能な限りご本人の意向やペースに合わせた入浴をご提案している。	自力で入浴可能な利用者以外は、二人介助で安全、安楽に入浴できるよう配慮している。利用者の好みの湯の温度や、こだわりのタオル、洗い方など、意向に沿った支援している。入浴時は皮膚の状態を観察し、スキンケアしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居面談時の睡眠アセスメントで、睡眠の習慣を把握し、習慣に応じた支援をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できるようにしている。また不明な点があれば提携薬局に気軽に相談できる関係にある。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担って頂いている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の生活中からご入居者が行きたいと言われていた、明石公園の菊花展、健康公園のお花見、綱敷天満宮に初詣などに行った。 また、日常的には職員と散歩や買い物に行っている。	利用者によっては、買い物や喫茶店、家族と共に外出の機会があるが、重度化、高齢の利用者が多くなり、外出が厳しい状況になりつつある。しかし、少しでも外気浴できるよう、玄関先や裏庭に出ることもある。近々、フロア毎に花見に行く計画がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物へ出かける場合は基本的には立替払いとしている。ご希望があれば、お金の直接的なやり取りは入居者さまにもしていただきようとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される方はいないが、電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご入居の皆様で作成したちぎり絵を飾るなど、季節感の演出に努めている。温湿度計を設置して、快適な空間作りに努めている。	リビングを中心に居室が並び、居室にいても人の気配を感じることのできる構造で、利用者は見守られながら、好みの居心地のいい場所で寛ぐことができる。壁には家族が来訪時、ホームでの様子が分かる写真や手作りの作品が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具類や、家で飾っていたインテリアなど持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境、雰囲気を感じさせるように配慮している。	クローゼットとベッド以外は、それぞれ好みの家具や、机、テレビ、ぬいぐるみ、加湿器、仏壇、ソファなどが置かれ、個性的な居室作りをしている。各部屋には温湿度計が置かれ、快適な室温と湿度に配慮されている。利用者によっては居室で編み物や、読書、テレビを見たり自宅のように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレがない為、トイレや浴室がわかりやすいように表示している。また、キッチン内は自由に出入りして頂けるようにしている。		